

藤前フォーラム2018

いま振り返る藤前干潟保全の歴史第3回 ～環境アセスメントの果たした役割～

1998年に実施された藤前干潟の環境アセスメントは、日本の同制度史上希有な成功例といわれます。実施後20年を経過した今でもその価値は変わらず、海外の環境アセス関係者も見学を訪れる場所となっています。今回は、日本の環境アセスメント研究の第一人者であり、当時から現地をしばしば訪れて状況を見てこられた原科幸彦氏（千葉商科大学学長）に、藤前アセスの意義についてお話しいただきます。埋立計画中止がどのように実現したのか、「環境アセスメント」の視点から考えましょう。

[講師]

原科幸彦氏（はらしな・さちひこ／千葉商科大学学長、東京工業大学名誉教授）
1946年生まれ、東京工業大学工学部卒。同大学院理工学研究科博士課程修了（工学博士）。環境庁国立公害研究所主任研究員、マサチューセッツ工科大学客員研究員、東京工業大学教授、同大学院総合理工学研究科長、放送大学客員教授、千葉商科大学政策情報学部長などを経て、2017年3月、学長に就任。社会工学が専門で、参加と合意形成研究、環境アセスメント研究の第一人者として国内外で広く知られ、日本計画行政学会会長や国際影響評価学会（IAIA）会長などを務めた。



日時 2018年11月18日（日・「藤前干潟の日」） 14:00～16:00

場所 環境省稲永ビジターセンター会議室

あおなみ線野跡駅下車徒歩10分・稲永公園内

駐車場あり（約20台＋100台以上）

定員 50名 参加無料

※参加申し込みは下記までお願いします。（藤前干潟を守る会イベント受付担当）

email info@fujimae.org tel 080-5157-2002

主催：特定非営利活動法人藤前干潟を守る会